

中小企業動向調査

この調査は富山県内企業442社を対象に実施し、411社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成18年10月～12月の実績、平成19年1月～3月の見込み、平成19年4月～6月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成19年1月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	207	198	95.7%
非 製 造 業	235	213	90.6%
計	442	411	93.0%

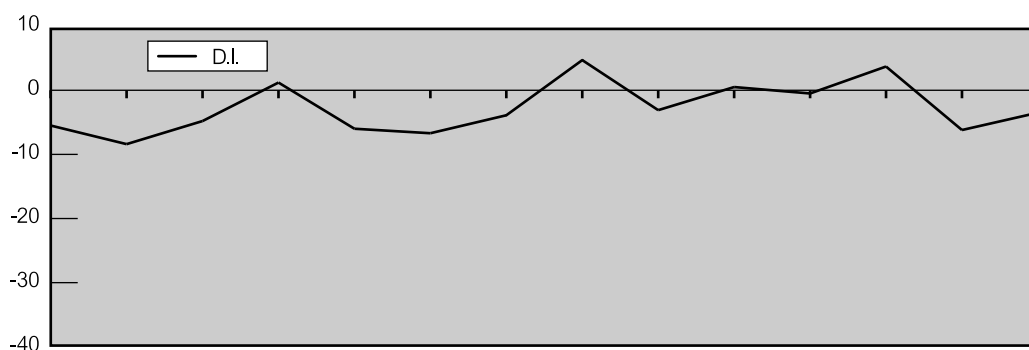
日銀が1月18日に公表した金融経済月報（基本的見解2007年1月）によると、現状の景気判断について、「わが国の景気は、穏やかに拡大している」とし、先行きについては「先行きについても、景気は穏やかな拡大を続けるとみられる。」としている。すなわち、「輸出は、海外経済の拡大を背景に、増加を続けていくとみられる。また、国内民間需要も、高水準の企業収益や雇用者所得の緩やかな増加を背景に、引き続き増加していく可能性が高い。こうした内外需要の増加を反映して、生産も増加基調をたどるとみられる。この間、公共投資は減少基調を続けると考えられる。」と、景気は穏やかな拡大を続けるとしている。

I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
良 い	19.8	13.2	18.9	21.8	19.7	17.7	17.7	22.2	19.1	19.7	18.3	20.9	14.4	11.4
普 通	54.9	65.3	57.4	57.6	54.6	57.9	60.7	60.3	58.7	61.3	62.9	61.8	65.0	73.8
悪 い	25.3	21.5	23.7	20.6	25.7	24.4	21.6	17.5	22.2	19.1	18.8	17.2	20.6	14.9
D . I .	-5.5	-8.4	-4.8	1.2	-6.0	-6.7	-3.9	4.7	-3.1	0.5	-0.5	3.7	-6.2	-3.5

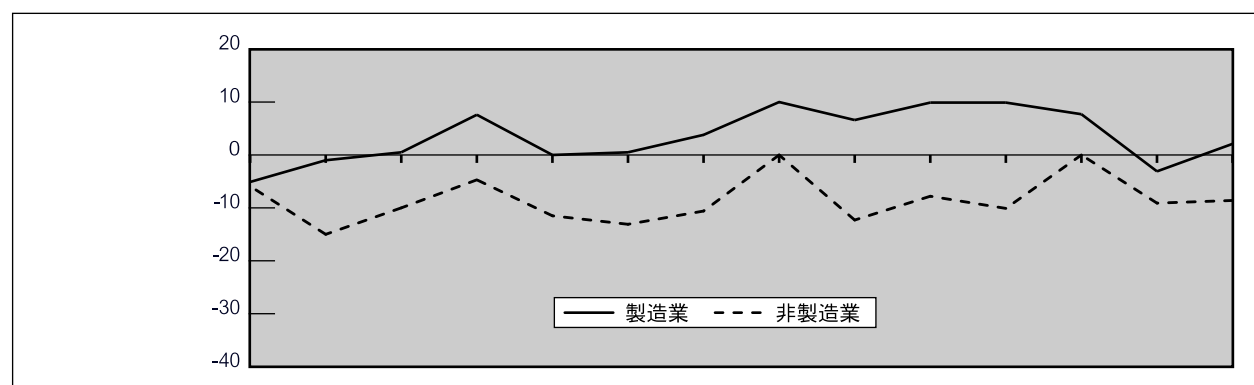


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

		(%)												見込	予測
種別	期別	16 年				17 年				18 年				19年	
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
良	い	20.2	15.7	19.8	25.4	22.6	22.3	21.5	25.3	23.9	25.7	24.5	22.4	13.9	12.8
普	通	54.5	67.7	60.9	56.9	54.9	56.0	60.8	59.5	58.9	58.6	60.9	62.8	69.1	76.4
悪	い	25.3	16.7	19.3	17.8	22.6	21.8	17.7	15.3	17.3	15.7	14.6	14.8	17.0	10.8
D . I .		-5.1	-1.0	0.5	7.6	0.0	0.5	3.8	10.0	6.6	9.9	9.9	7.7	-3.1	2.1

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

		(%)												見込	予測
種別	期別	16 年				17 年				18 年				19年	
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
良	い	19.5	10.9	18.0	18.5	17.1	13.6	14.4	19.4	14.6	14.3	12.6	19.5	14.8	10.0
普	通	55.2	63.2	54.0	58.3	54.4	59.6	60.6	61.1	58.5	63.6	64.7	61.0	61.2	71.3
悪	い	25.3	25.9	28.0	23.2	28.6	26.8	25.0	19.4	26.9	22.1	22.7	19.5	23.9	18.7
D . I .		-5.9	-15.0	-10.0	-4.7	-11.5	-13.1	-10.6	0.0	-12.3	-7.8	-10.1	0.0	-9.1	-8.6



- こうした全国の状況の中で富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い－悪い」は、18年10-12月期実績は3.7と前期比4.2ポイント改善した。先行きについて19年1-3月期のD.I.は、前期比9.9ポイント悪化する見込みとなっている。（季節調整は行っていない）。
- 業況判断指数D.I.の18年10-12月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は7.7と引き続きプラスとなった。非製造業は前期比10.1ポイント改善し0.0となった。先行きについて19年1-3月期のD.I.は、製造業・非製造業ともにマイナスに転じる見込みとなっている。

製造業の業況判断指数D.I.先行きについて、19年1-3月期見込は▲3.1と2年9ヶ月ぶりにマイナスとなる調査結果となった。19年4-6月期予測はプラスに転じ、2.1としておりマイナスの期間は限定的と予測している。

一方、非製造業の業況判断指数D.I.先行きについては、19年1-3月期以降再びマイナスに転じると見込んでいる。

Ⅱ．売上高状況

売上高状況

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
増 加	38.1	27.0	36.4	36.3	35.8	35.9	36.4	35.4	35.0	35.0	33.8	36.0	26.8	23.4
横 ば い	37.0	51.7	38.5	38.0	38.9	40.0	40.6	40.5	40.9	44.3	44.4	42.1	49.4	60.6
減 少	24.9	21.3	25.1	25.7	25.3	24.1	23.1	24.1	24.1	20.8	21.8	21.9	23.8	16.1
D . I .	13.2	5.7	11.3	10.6	10.5	11.8	13.3	11.2	10.9	14.2	11.9	14.1	2.9	7.3

売上高状況（うち製造業のみ）

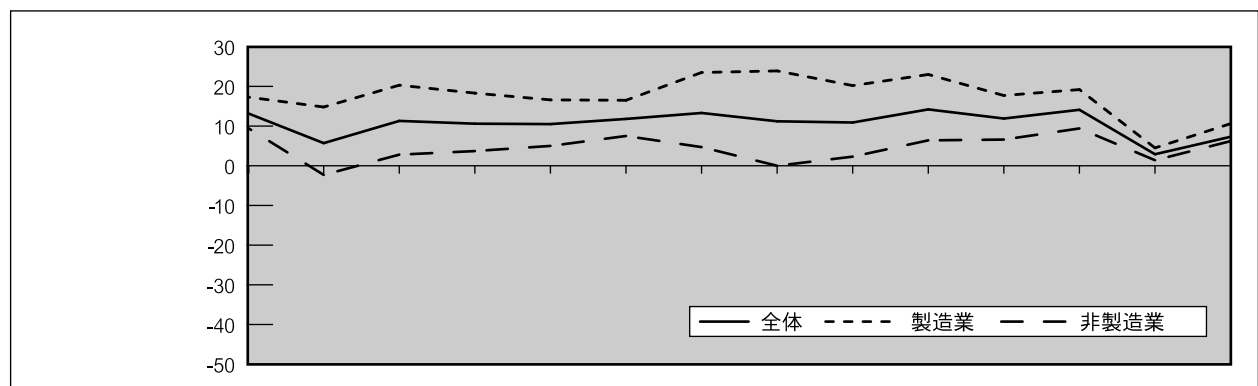
(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
増 加	42.3	32.7	41.1	41.3	40.9	41.2	43.8	43.1	41.4	39.2	38.0	39.9	27.7	23.7
横 ば い	32.7	49.4	38.2	35.7	34.7	34.0	35.8	37.8	37.4	44.5	41.7	39.4	49.0	63.1
減 少	25.0	17.9	20.8	23.0	24.4	24.7	20.3	19.1	21.2	16.2	20.3	20.7	23.2	13.1
D . I .	17.3	14.8	20.3	18.3	16.6	16.5	23.5	23.9	20.2	23.0	17.7	19.2	4.5	10.6

売上高状況（うち非製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
増 加	34.2	22.1	31.9	31.8	31.2	31.0	30.2	28.5	29.1	31.2	29.8	32.4	25.8	23.0
横 ば い	41.0	53.6	38.9	40.1	42.7	45.5	44.2	43.0	44.1	44.0	46.9	44.6	49.8	58.2
減 少	24.8	24.3	29.2	28.1	26.1	23.5	25.6	28.5	26.8	24.8	23.2	23.0	24.4	18.8
D . I .	9.5	-2.3	2.8	3.7	5.0	7.5	4.7	0.0	2.3	6.4	6.6	9.4	1.4	4.2



- (1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。全産業の売上高状況D.I.は、18年全期間でプラス10以上となっており、17年に引続き前年比での売上高の増加傾向が続いている。

先行きでは19年1-3月期2.9と、前期比マイナス11.2ポイントを見込んでおり弱含みの調査結果となった。

- (2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業で分けてみると、製造業では18年年初から年末にかけD.I.は若干低下傾向が見られる。

非製造業は18年全期間でプラスの水準が続いているがD.I.の水準から見ても、製造業のような好調さは感じられない。

Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

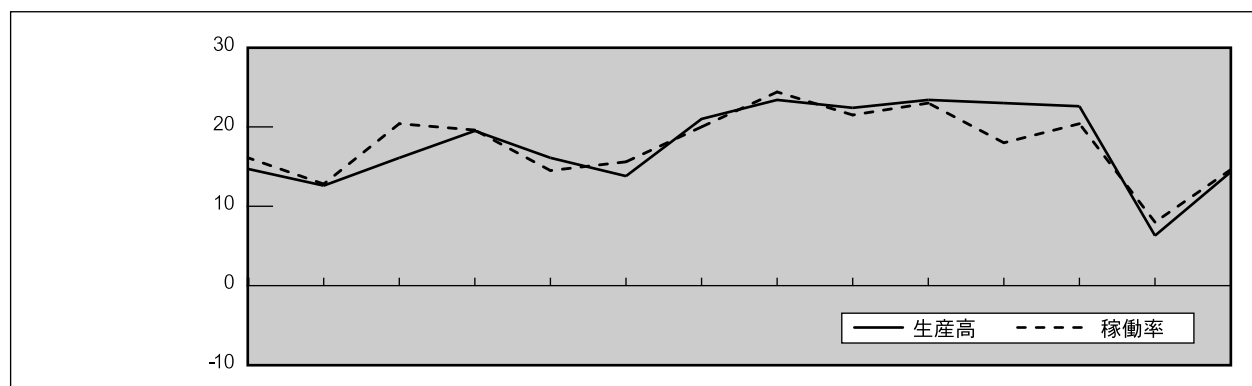
(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
20%以上増加	9.5	6.8	5.5	10.8	9.7	8.5	9.9	12.5	11.7	7.6	10.7	8.4	4.2	4.8
20%未満増加	29.5	22.1	30.7	30.8	30.1	29.6	30.4	28.3	28.1	32.1	28.3	31.6	23.7	21.2
横ばい状況	36.8	54.7	43.7	36.4	36.6	37.6	40.3	41.8	42.9	44.0	44.9	42.6	50.5	62.4
20%未満減少	20.5	14.2	18.1	19.0	20.4	21.7	18.8	15.2	16.8	13.6	14.4	17.4	20.0	11.1
20%以上減少	3.7	2.1	2.0	3.1	3.2	2.6	0.6	2.2	0.5	2.7	1.6	0.0	1.6	0.5
D . I .	14.7	12.6	16.1	19.5	16.1	13.8	21.0	23.4	22.4	23.4	23.0	22.6	6.3	14.3

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
上 昇	9.7	8.0	6.8	11.9	10.6	9.4	11.7	13.3	12.0	8.2	9.3	5.9	4.8	2.7
やや上 昇	27.4	19.8	26.7	25.3	26.8	27.1	23.9	25.6	27.2	28.4	25.1	31.2	21.4	21.6
横 ば い	41.9	57.2	53.4	45.4	39.7	42.7	48.9	46.7	42.9	49.7	49.2	46.2	55.6	65.9
やや下 降	18.3	13.4	11.5	14.4	20.1	17.7	13.3	13.9	15.2	11.5	15.8	16.7	16.6	9.2
下 降	2.7	1.6	1.6	3.1	2.8	3.1	2.2	0.6	2.6	2.2	0.5	0.0	1.6	0.5
D . I .	16.1	12.8	20.4	19.6	14.5	15.6	20.0	24.4	21.5	23.0	18.0	20.4	8.0	14.6



- (1) 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.I.「増加－減少」は、18年は全期間で20以上となった。

先行きでは、19年1-3月期に6.3と前期比▲16.3ポイントの大幅な低下を見込んでいる。内容では「横ばい状況」と回答した企業が増える傾向が見られ、影響は限定的と考えられる。

- (2) 一方の稼働率状況D.I.から、18年全期間で稼働率が上昇した状況がうかがわれるも、生産高同様先行きでは19年1-3月期に稼働率が下降する見込みとなっている。

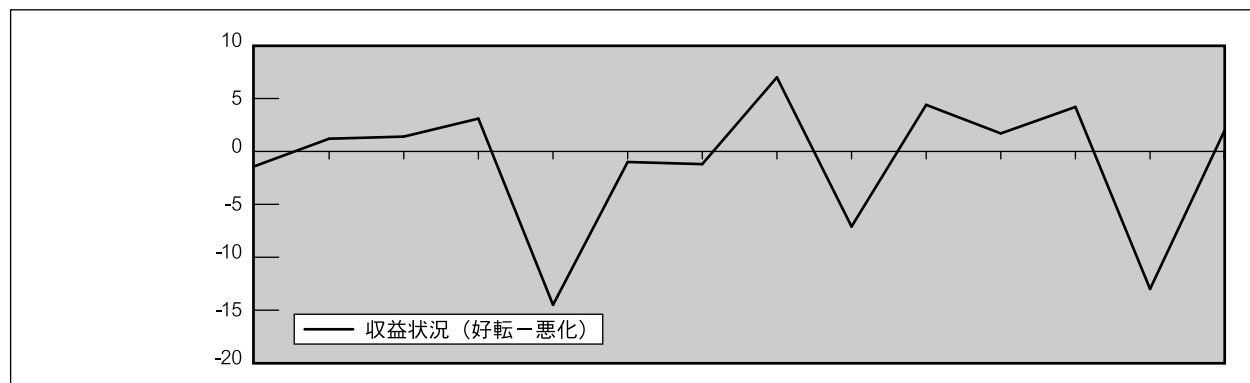
製造業の生産高・稼働率の先行き予測19年4-6月期は、それぞれ上昇するとの予測となっており19年1-3月期の稼働率の下降見込みは長期化しない予測となっている。

IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
好 転	23.0	19.0	22.1	22.4	17.7	19.7	21.0	23.5	18.6	23.8	18.4	23.2	14.5	17.9
横 ば い	52.6	63.3	57.1	58.3	50.1	59.6	56.8	60.0	55.6	56.9	64.9	57.7	58.1	66.2
悪 化	24.4	17.8	20.7	19.3	32.2	20.7	22.2	16.5	25.7	19.1	16.7	19.1	27.5	15.9
D . I .	-1.4	1.2	1.4	3.1	-14.5	-1.0	-1.2	7.0	-7.1	4.4	1.7	4.2	-13.0	2.0



好転理由

(%) 見込 予測

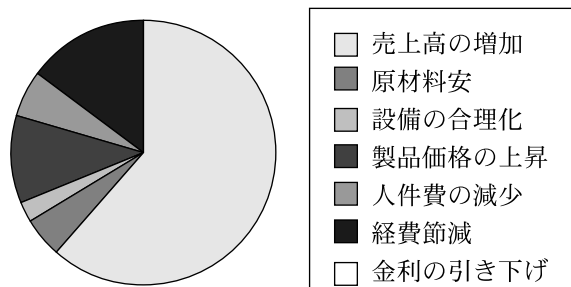
期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
売上高の増加	60.6	60.0	64.0	75.7	74.4	69.7	65.5	69.1	56.3	64.6	61.9	61.5	65.4	69.9
原 材 料 安	2.4	5.7	1.8	1.7	2.3	5.1	2.6	2.7	7.1	2.4	6.2	4.9	5.1	4.3
設備の合理化	5.5	5.7	1.8	2.6	4.7	0.0	2.6	1.8	2.7	2.4	4.1	2.5	3.8	3.2
製品価格の上昇	7.9	5.7	5.3	4.3	5.8	8.1	7.8	4.5	12.5	9.4	9.3	10.7	9.0	7.5
人件費の減少	7.9	6.7	7.9	4.3	3.5	2.0	6.9	5.5	1.8	2.4	6.2	5.7	5.1	3.2
経 費 節 減	15.0	15.2	17.5	11.3	9.3	15.2	14.7	16.4	16.1	17.3	12.4	14.8	11.5	10.8
金利の引き下げ	0.8	1.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.6	0.0	0.0	0.0	1.1

悪化理由

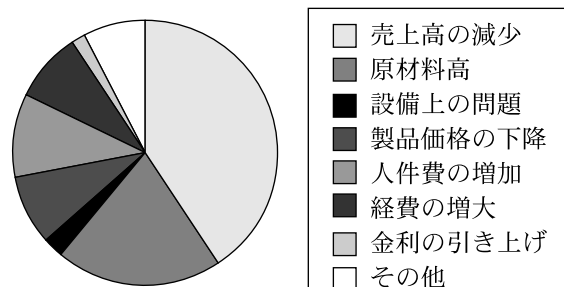
(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
売上高の減少	57.1	56.0	51.7	57.7	60.0	49.6	48.4	41.8	57.5	38.9	35.4	40.7	60.5	50.5
原 材 料 高	12.1	14.0	19.0	18.3	21.1	19.8	19.8	20.4	19.4	24.1	28.1	20.3	15.8	16.8
設備上の問題	0.7	2.0	0.0	0.0	0.6	1.7	3.2	0.0	0.7	2.8	1.0	2.5	1.3	5.3
製品価格の下降	14.3	13.0	12.9	14.4	7.4	9.1	8.7	7.1	6.7	7.4	10.4	8.5	7.2	7.4
経 費 の 増 大	5.7	2.0	8.6	4.8	7.4	10.7	9.5	11.2	2.2	5.6	15.6	10.2	4.6	5.3
人件費の増加	2.9	5.0	5.2	1.9	1.7	5.8	5.6	8.2	9.7	12.0	4.2	8.5	4.6	7.4
金利の引き上げ	0.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.7	0.0	1.0	1.7	3.3	4.2
そ の 他	6.4	7.0	2.6	2.9	1.8	2.5	4.8	11.2	3.0	9.3	4.2	7.6	2.6	3.2

好転理由



悪化理由

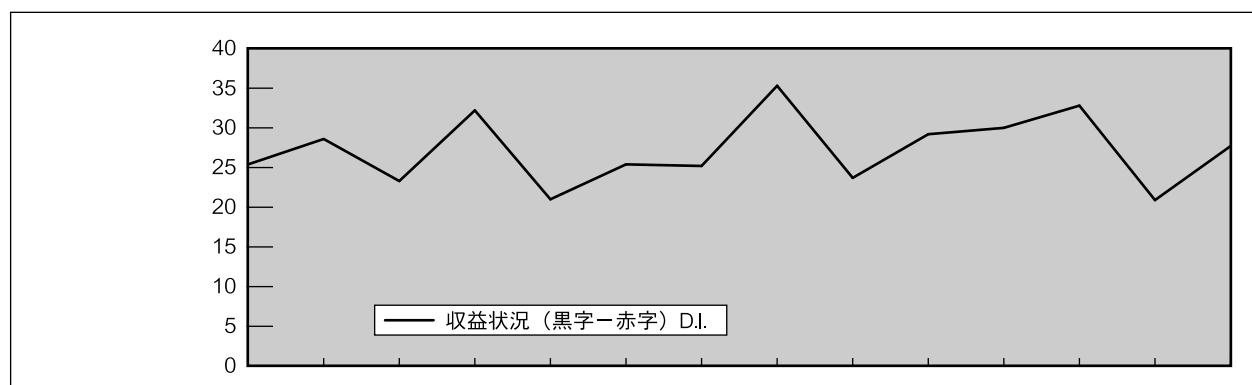


- (1) 10-12月期収益状況「好転－悪化」D.I.は、4.2と前期比2.5ポイント改善した。先行きについては、19年1-3月期D.I.は▲13.0と18年10-12月期実績より17.2ポイントの悪化を見込んでいる。しかし、19年4-6月期予測では2.0と再びプラスへ転じる予測となっている。
- (2) 「収益状況が好転した」理由10-12月期実績は、①売上高の増加61.5%、②経費節減14.8%、③製品価格の上昇10.7%の順となっている。順位は前回と変わっていない。先行きでは、「製品価格の上昇」「経費節減」との回答は徐々に減少し、「売上高の増加」の回答が増加する傾向にある。
- (3) 「収益状況が悪化した」理由10-12月期実績は、①売上高の減少40.7%、②原材料高20.3%、③経費の増大10.2%の順となっている。

原材料高▲7.8ポイント、経費の増大▲5.4ポイントと、ともに減少しており原油高騰に起因する素材高・燃料費の増大に歯止めがなかったと考えられる。

収益状況（黒字－償却後赤字）

		(%)												見込	予測
種別	期別	16 年				17 年				18 年				19年	
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
黒字		46.8	43.8	44.7	48.2	43.3	44.8	44.1	48.5	44.4	43.8	44.6	48.5	37.9	40.6
収支トントン		31.9	41.1	34.0	35.8	34.5	35.7	37.0	38.3	34.9	41.6	40.8	35.7	45.1	46.5
償却後赤字		21.3	15.1	21.4	16.0	22.2	19.5	18.9	13.2	20.7	14.6	14.6	15.8	17.0	12.9
D.I.		25.4	28.6	23.3	32.2	21.0	25.4	25.2	35.3	23.7	29.2	30.0	32.8	20.9	27.7



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は、18年4-6月期以降改善し、10-12月期は32.8となったが、19年1-3月期は20.9と11.9ポイント悪化する見込みとなっている。

例年1-3月期は悪化とする回答が多く、季節的要因が考えられる。18年10-12月期実績では84.2%の企業が黒字もしくは収支トントンと回答しており、19年1-3月期見込でも83%の企業が黒字もしくは収支トントンと見込んでいる。

V. 製品在庫水準

製品在庫水準

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不 足	2.9	2.4	2.9	3.5	2.7	4.7	3.6	3.3	3.2	3.6	3.9	3.6	2.7	2.7
適 正	83.9	85.8	85.4	84.5	82.8	79.7	81.9	83.0	86.0	83.8	85.5	86.4	88.5	92.1
過 剰	13.2	11.8	11.7	12.0	14.5	15.6	14.5	13.6	10.8	12.6	10.6	10.0	8.8	5.2
D . I .	-10.3	-9.5	-8.9	-8.5	-11.8	-10.9	-10.8	-10.3	-7.6	-9.0	-6.6	-6.4	-6.1	-2.4

製品在庫水準（うち製造業のみ）

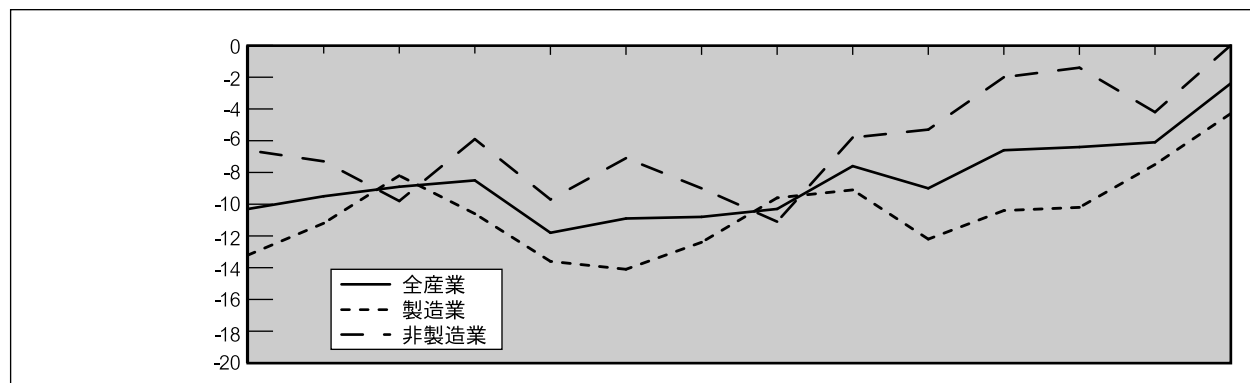
(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不 足	3.7	2.7	3.6	2.6	2.7	3.2	4.0	4.5	4.3	3.9	3.3	3.7	2.7	2.7
適 正	79.4	83.5	84.7	84.1	81.0	79.5	79.7	81.4	82.3	80.1	83.0	82.4	87.2	90.4
過 剰	16.9	13.8	11.7	13.2	16.3	17.3	16.4	14.1	13.4	16.0	13.7	13.9	10.2	7.0
D . I .	-13.2	-11.2	-8.2	-10.6	-13.6	-14.1	-12.4	-9.6	-9.1	-12.2	-10.4	-10.2	-7.5	-4.3

製品在庫水準（うち非製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不 足	2.0	2.0	2.0	4.6	2.6	6.5	3.2	2.0	1.9	3.3	4.7	3.5	2.8	2.8
適 正	89.5	88.7	86.3	84.9	85.1	80.0	84.5	85.0	90.4	88.2	88.6	91.6	90.2	94.4
過 剰	8.6	9.3	11.8	10.5	12.3	13.5	12.3	13.1	7.7	8.6	6.7	4.9	7.0	2.8
D . I .	-6.6	-7.3	-9.8	-5.9	-9.7	-7.1	-9.0	-11.1	-5.8	-5.3	-2.0	-1.4	-4.2	0.0



- (1) 全産業の製品在庫水準「不足－過剰」D.I.は、18年10-12月期は▲6.4となった。18年に入り製品在庫の過剰感は改善し、全期間を通して17年より改善した。

先行きでも製品在庫の過剰感は更に改善し、19年4-6月期は▲2.4まで改善する予測となっている。

- (2) 18年10-12月期製品在庫水準「不足－過剰」D.I.業種別では、高岡銅器・出版印刷紙加工工業に在庫の過剰感が見られる。

先行きについて、平成19年1-3月期見込みでは高岡銅器・百貨店スーパー小売業・窯業土石業において在庫過剰感が高い回答となっている。

VI. 設備投資動向

設備投資の有無

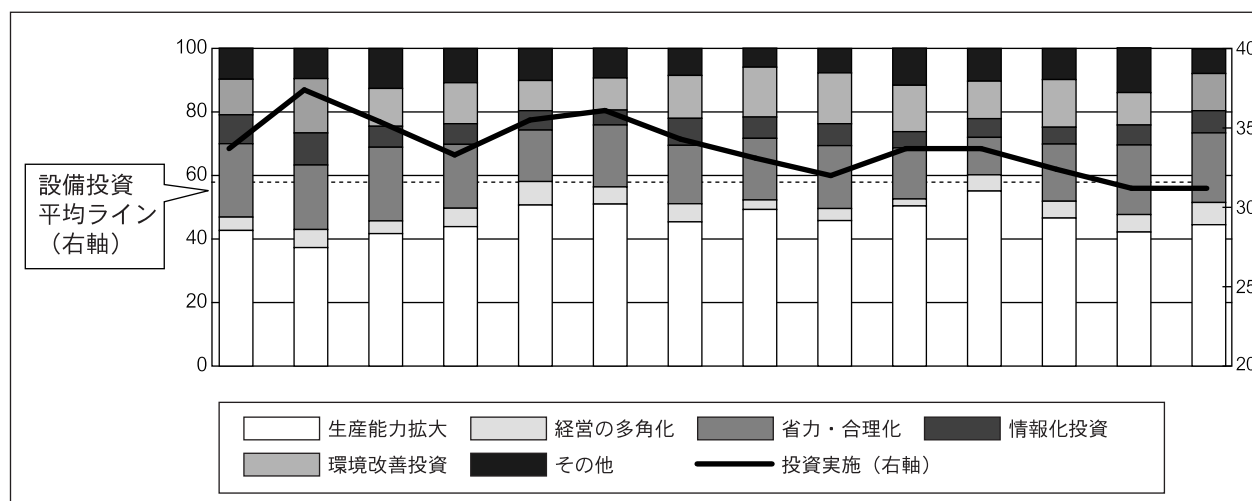
(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
投資実施	33.7	37.4	35.4	33.3	35.5	36.1	34.3	33.1	32.0	33.7	33.7	32.4	31.2	31.2
投資せず	66.3	62.6	64.6	66.7	64.5	63.9	65.7	66.9	68.0	66.3	66.3	67.6	68.8	68.8

設備投資の目的（実施先について）

(%)

生産能力拡大	42.7	37.3	41.7	43.9	50.7	51.0	45.4	49.3	45.8	50.4	55.1	46.6	42.2	44.5
経営の多角化	4.2	5.7	4.0	5.8	7.4	5.4	5.7	3.0	3.8	2.2	5.1	5.3	5.5	7.0
省力・合理化	23.1	20.3	23.2	20.1	16.2	19.5	18.4	19.4	19.8	16.1	11.8	18.0	21.9	21.9
情報化投資	9.1	10.1	6.6	6.5	6.1	4.7	8.5	6.7	6.9	5.1	5.9	5.3	6.3	7.0
環境改善投資	11.2	17.1	11.9	12.9	9.5	10.1	13.5	15.7	16.0	14.6	11.8	15.0	10.2	11.7
その他	9.8	9.5	12.6	10.8	10.1	9.4	8.5	6.0	7.7	11.7	10.3	9.8	14.1	7.8



- (1) 18年10-12月に設備投資を実施した企業は全産業の32.4%であり、14期連続で30%を上回った。18年10-12月期実績を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は39.4%、非製造業は25.8%となっている。

18年10-12月期に設備投資を実施した企業の投資目的は、生産・販売能力拡大が46.6%でトップ、省力・合理化投資が前期比6.2ポイント増の18.0%で続いた。

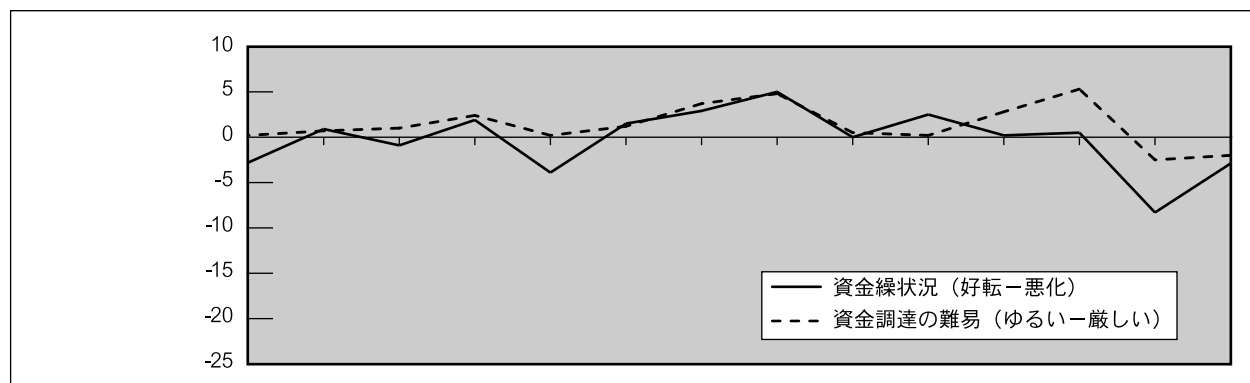
- (2) 19年1-3月期に設備投資を予定している企業は全体の31.2%で、平成12年以降の平均31.8%を下回った。設備投資の目的では18年10-12月期同様、省力・合理化投資が増加する傾向が見られる。
- (3) 18年10-12月期において設備投資実施企業の割合が50%を超えたのは、繊維・出版印刷紙加工・機械工具販売業であった。また、2期連続50%を超えたのも繊維・出版印刷紙加工業・機械工具販売の3業種となっている。

VII. 資金繰り状況

資金繰状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
好 転	10.2	10.4	10.8	11.1	8.7	9.2	10.3	11.7	11.0	10.8	9.2	11.0	7.1	8.8
変 わ ら ず	76.8	80.1	77.4	79.8	78.7	83.0	82.4	81.6	77.9	80.9	81.9	78.4	77.5	79.4
悪 化	13.0	9.5	11.8	9.2	12.6	7.8	7.3	6.7	11.0	8.3	8.9	10.5	15.4	11.8
D . I .	-2.8	0.9	-0.9	1.9	-3.9	1.5	2.9	5.0	0.0	2.5	0.2	0.5	-8.3	-2.9



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

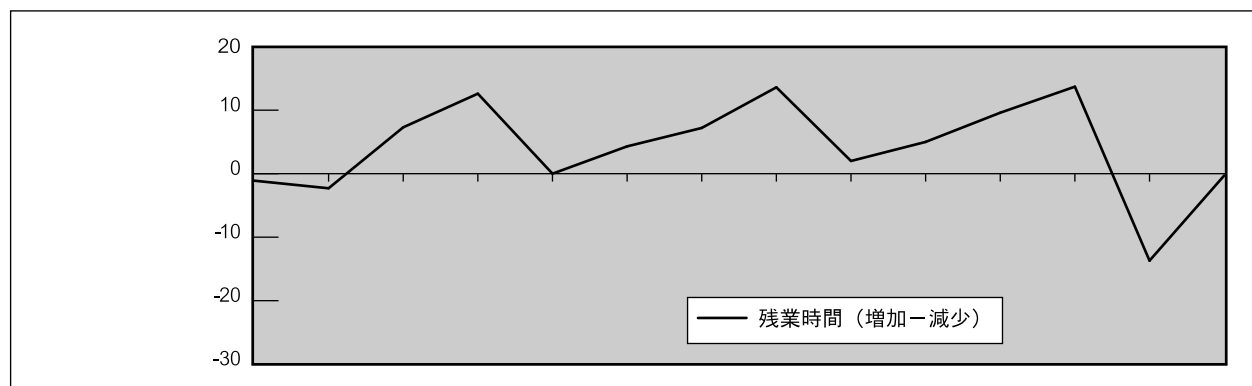
期別 種別	16 年				17 年				18 年				19年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
ゆ る い	14.4	13.8	12.0	13.7	12.2	13.1	14.4	14.1	12.2	11.5	13.2	13.8	11.5	11.0
厳しくない	71.5	73.1	77.0	75.1	75.4	75.1	74.9	76.6	75.1	77.3	76.3	77.8	74.6	75.9
厳 し い	14.1	13.1	11.0	11.2	12.4	11.8	10.7	9.3	12.7	11.2	10.4	8.5	14.0	13.0
D . I .	0.2	0.7	1.0	2.4	-0.2	1.2	3.7	4.8	-0.5	0.2	2.8	5.3	-2.5	-2.0

- 資金繰状況D.I.「好転－悪化」実績は18年10-12月期0.5となり、17年4-6月期以降プラスとなっているが、19年1-3月期見込みは▲8.3とマイナスの見込みとなっており、先行きについて懸念される調査結果となった。
- 一方、資金調達の難易D.I.「ゆるい－厳しい」においては、18年10-12月期もプラスとなった。先行きについては、19年1-3月期・4-6月期ともにマイナスを予測している。90%近くの企業が資金調達に厳しさを感じていない一方で、資金調達に厳しさを感じている企業も依然として10%程度存在している。

VIII. 労務事情

残業時間

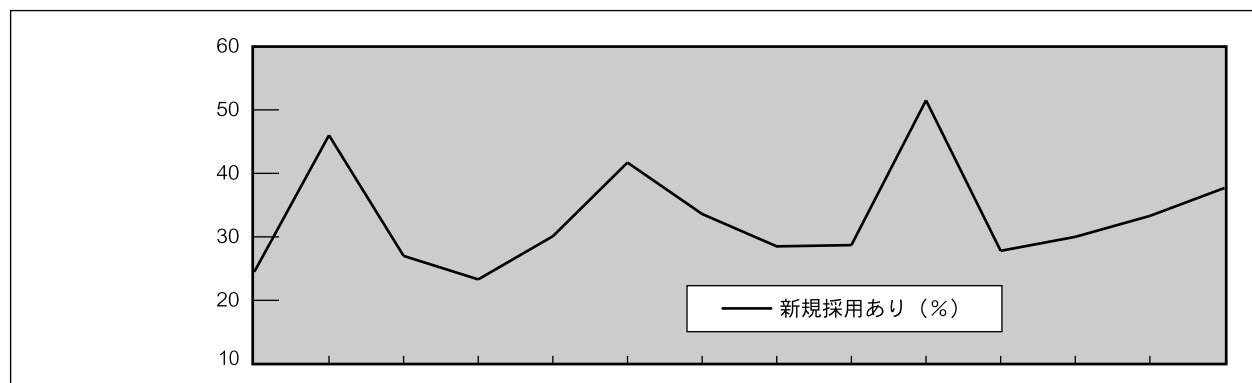
													(%)	見込	予測
種別	16 年				17 年				18 年				19年		
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
増加	18.8	14.4	19.1	25.4	20.2	19.6	19.1	24.6	19.5	19.4	17.2	22.5	10.3	12.9	
横ばい	61.2	68.9	69.1	61.7	59.7	65.0	69.1	64.3	63.1	66.2	75.3	68.7	65.7	74.0	
減少	19.9	16.7	11.8	12.8	20.2	15.3	11.8	11.0	17.4	14.4	7.5	8.8	24.0	13.1	
D . I .	-1.1	-2.3	7.3	12.6	0.0	4.3	7.2	13.6	2.0	5.0	9.6	13.7	-13.7	-0.3	



- (1) 残業時間（増加－減少）D.I.18年10-12月期は、前期比プラス4.1ポイントとなったが19年1-3月期見込み、4-6月期予測ともD.I.はマイナスとなる。特に19年1-3月期見込みは、▲27.4ポイントと大幅に減少する見込みとなっている。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

													(%)	見込	予測
種別	16 年				17 年				18 年				19年		
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
全産業	24.5	46.0	27.0	23.3	30.0	44.8	33.1	28.9	32.0	48.2	26.9	29.9	29.5	39.5	
(うち製造業)	26.6	49.2	28.4	25.6	29.7	48.2	32.5	29.3	35.5	44.5	25.9	29.9	25.3	41.6	
(うち非製造業)	22.7	43.1	25.7	21.1	30.1	41.7	33.6	28.5	28.7	51.5	27.8	30.0	33.3	37.7	

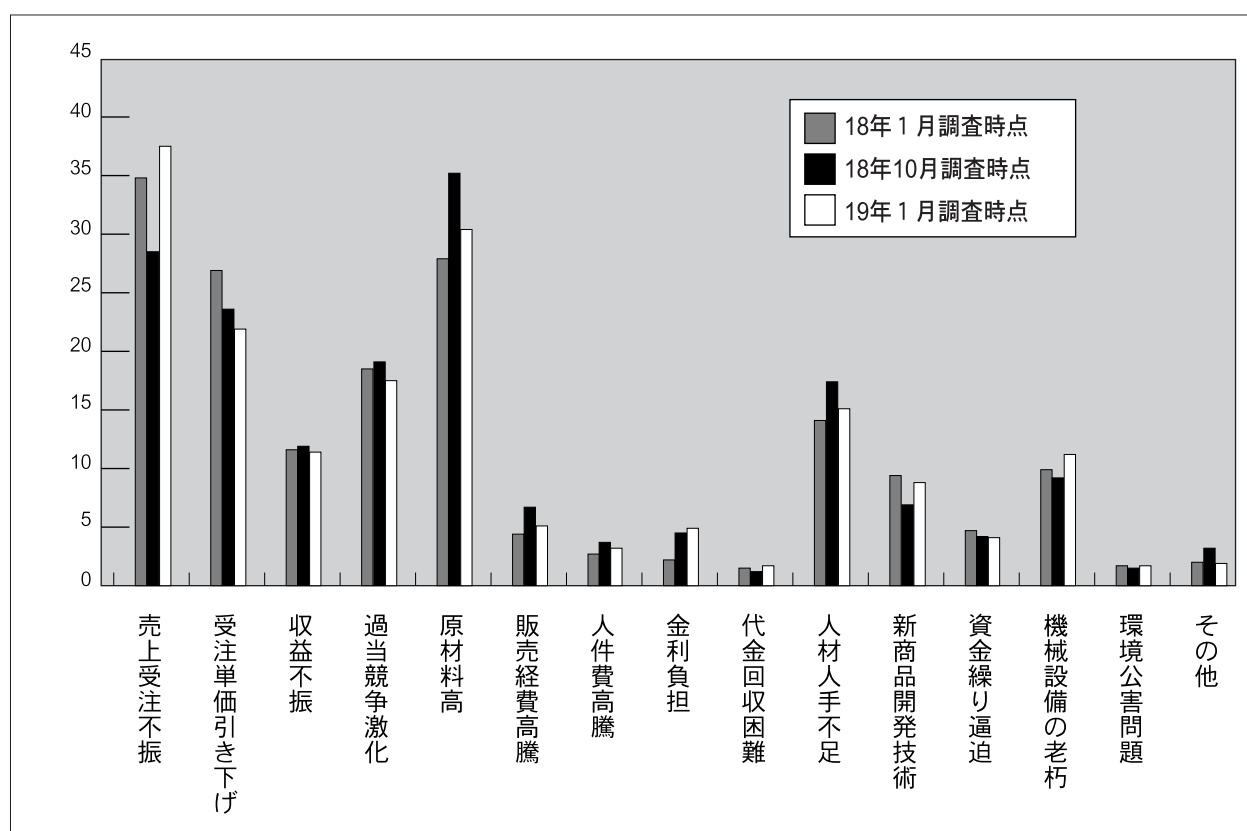


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、非製造業の採用について増加傾向が見られる。

IX. 当面の経営上の問題点

(%:複数回答あり)

	18年1月 (前年)	18年10月 (前回)	19年1月 (今回)			前回比増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売 上 受 注 不 振	34.8	28.5	37.5	(31.3)	(43.2)	9.0
受注単価引き下げ	26.9	23.6	21.9	(23.7)	(20.2)	-1.7
収 益 不 振	11.6	11.9	11.4	(11.1)	(11.7)	-0.5
過 当 競 争 激 化	18.5	19.1	17.5	(9.1)	(25.4)	-1.6
原 材 料 高	27.9	35.2	30.4	(42.4)	(19.2)	-4.8
販 売 経 費 高 騰	4.4	6.7	5.1	(1.5)	(8.5)	-1.6
人 件 費 高 騰	2.7	3.7	3.2	(2.5)	(3.8)	-0.5
金 利 負 担	2.2	4.5	4.9	(5.6)	(4.2)	0.4
代 金 回 収 困 難	1.5	1.2	1.7	(0.5)	(2.8)	0.5
人 材 人 手 不 足	14.1	17.4	15.1	(14.6)	(15.5)	-2.3
新 商 品 開 発 技 術	9.4	6.9	8.8	(14.1)	(3.8)	1.9
資 金 繰 り 逼 迫	4.7	4.2	4.1	(3.0)	(5.2)	-0.1
機 械 設 備 の 老 朽	9.9	9.2	11.2	(13.1)	(9.4)	2.0
環 境 公 害 問 題	1.7	1.5	1.7	(1.5)	(1.9)	0.2
そ の 他	2.0	3.2	1.9	(2.5)	(1.4)	-1.3



- 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振37.5%(前期比+9.0ポイント)、②原材料高30.4%(前期比▲4.8ポイント)、③受注単価引き下げ21.9%(前期比▲1.7ポイント)の順となっている。
- これを製造業と非製造業に分けてみると前回アンケート同様、製造業では原材料高42.4%(前期比▲8.6ポイント)、非製造業では売上受注不振43.2%(前期比+10.5ポイント)の割合が高くなっている。
- 今回調査では機械設備の老朽が前期比2.0ポイント増加し11.2%となった。特に製造業では前回調査を3.2ポイント上回り13.1%となった。製造業について、18年10-12月期設備投資実施企業は39.4%と高水準を維持しているが、設備投資実施企業と非実施企業の二極化が懸念される。